

視点(1391)

檄文：トインビーの歴史観と日本の底力!!

東日本大震災により、日本中が未曾有の国難に陥っています。今、日本人の国難に対する対応力が問われています。1991年から失われた20年と呼ばれ、経済的発展はゼロ成長でした。しかし、まだ日本は2009年まで世界第2位で、2010年に中国に抜かれて第3位です。ここで、この国難を克服して、再度経済発展する国になるか、このまま長期低落化するかの分岐点に現在の日本はいます。私は学生時代(40年前)に読んだトインビーの「歴史の研究」を思い出しました。

英国の歴史家「アーノルド・J・トインビー」の「歴史の研究」(本書は12巻から成り立っており、1934年までに3巻が、1939年までに6巻まで、1954年に10巻が、1961年に第12巻が発行)は、国家を中心とする歴史観を否定し、文明社会を中心とする歴史観を提示した。

トインビーがこのような独自の歴史観に基づきながら、文明は外部における「自然・人間環境と創造的な指導者」の二つの条件により発生し、気候変動や自然環境、戦争、民族移動、人口増大の挑戦に対応しながら成長する。しかし、文明は挑戦に挑戦することに失敗することにより弱体化を始め、衰退に向かうようになる。そこで指導者は新しい事態への対応能力を失い、社会は指導者に従わなくなり、統一性が損なわれる。最後には、内部分裂が進むことで指導者は保身のため権力を強化し、結果的に大衆はプロレタリアートによる反抗を通じて文明は解体されると定式化する。(出典：Wikipedia)

このようにトインビーによれば文明は自然あるいは人間環境の大変化からの「挑戦」(チャレンジ)に対して、人々の応戦(リスポンス)が適切であり、成功した時に「新たな文明」が生まれるという歴史的事実から解明しています。

日本もこの挑戦に対して適切な対応とその成功の事例がいくつもあります。

- ①幕末の日本は欧米列強の帝国主義による植民地化に追い込まれつつあった「挑戦」に対し、明治維新の富国強兵政策によって「対応」して、植民地化を未然に防ぎ、さらに大国へと発展しました。
- ②第2次世界大戦後は日本は敗戦という「挑戦」に対し、産業技術の向上による経済大国によって「対応」し、日本の国民を世界第2位の地位まで高めました。
- ③1970年代のオイルショック(石油危機)という「挑戦」に対し、日本は省エネ技術の向上という「対応」により、見事省エネ産業国家を確立しました。
- ④1980年の円高(360円から80円という驚異的な円高)の「挑戦」に対し、日本は生産性の向上とローコストノウハウの確立により「対応」し、貿易日本の地位を守り通し、今では、史上最高の輸出国家になっています。

このように、日本人は、トインビーの自然かつ人間環境の「挑戦」と創造的「対応」は過去において多くのことを成し遂げてきました。それゆえに極東の小さな国が世界を相手に競争するだけの国力や世界第2位の経済国家になれたわけです。

今、日本は東日本大震災という自然環境からの「挑戦」を受けています。日本はこの天災に立ち向かっていくために挙国一致の精神的な底力を発揮しようという運動が起こっています。

今こそ、日本はこの逆境を挑戦と捉えて、世界に類を見ない前人未達の対応をして、世界に日本の底力を示すことが必要です。日はまた昇る日本の時代の実現を!!

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代表 六 車 秀 之